



編集・発行／茨城県立中央病院・茨城県地域がんセンター

茨城県立中央病院・茨城県地域がんセンター

〒309-1793 茨城県笠間市鯉淵6528 ☎0296-77-1121 ホームページ <http://www.hospital.pref.ibaraki.jp/chuo/>

2014年 夏号 Vol.15

ほっとタイムズ

整形外科と耳鼻咽喉科で
電話予約ができます

院長メッセージ「夏休み」

「がん患者サロン」と「ピアサポート」のご案内

部所紹介 医療相談支援室

ドクター紹介 放射線治療センター長 玉木義雄
放射線画像診断科医長 児山 健

子宮筋腫に対する子宮動脈塞栓術
(UAE)を開始しました

病気を知ろうQ&A

熱中症の予防、症状、対策

院長メッセージ

[第15回]

「夏休み」



茨城県立中央病院
茨城県地域がんセンター
院長 永井 秀雄

昔、手術に救急、病棟、外来、当直と、忙しく飛び回っていました。よく働き、よく勉強したものだ、と思う反面、今の医師は決して真似してはいけないし、真似しようもない、とも思います。当時、同僚たちも多くは似たような生活をしてたと記憶します。

地方の病院に勤めていたとき、私にとって初めての子が生まれました。午後3時ごろのことです。第一報が手術室にいる私のもとに届きました。しかし、私は緊急手術の真っ最中でした。全身状態の悪い超肥満者の急性胆嚢炎で、麻酔科医からは全身麻酔を断られ、止むなく局所麻酔で胆嚢に穴を開けてチューブを入れようと必死でした。やっと終わったと思った矢先、救急車が入りました。コンクリートミキサー車のドラムの中を清掃していた人が、突然回りだした機械に挟まれ、身体の中央で圧挫されたとのこと。隣の手術室で緊急処置を施し、何とか血圧維持を図り、少し状態が落ち着いたとき、時計は午後10時を指していました。消灯のあ

との産科病棟に行き、妻をそっとねぎらったあと、我が子と初めて対面しました。何と小さな体なのだ、というのが第一印象でした。

24時間365日とは言わないものの、こうして1年中、昼も夜も仕事をしながら常に頭の中にあっただのは、夏休みを連続で1週間とることでした。この休みのために1年間がんばっているのだ、という思いがありました。同僚と交代で休みをとり、海や山に家族で出かけるのを夢見たものでした。

あれから数十年の歳月が流れました。若い人たちを見ていると、昔と余り変わらないように見える一方、随分ちがうなと思うことが多々あります。しかし、おそらく変わらないのは、しばし臨床現場から離れ、夏休みをとって休息したい、家族サービスをしたい、と思う気持ちなのだろうと思います。

強い陽射しに咲く花を眺めていると、遠い夏の思い出がよみがえります。



熱中症の予防、 症状、対策

Q1：熱中症はどんな場合になりやすいのですか？

一般的には室温・気温が高い中で運動・作業を一定時間行った場合になりやすいのですが、高齢者では体内水分量の減少や体温調節機構の低下により、屋内にいても発症しますので、特に注意が必要です。



Q2：熱中症にならないためにできることは何ですか？

こまめな水分・塩分補給、濡れタオルなどで体を冷やす、外出時には日傘・帽子を使用することなどが挙げられます。

Q3：熱中症になったかどうかの判断は？

めまい・失神・筋肉のつっぱりや筋肉痛などが、軽度の熱中症の症状として挙げられます。

暑熱環境により引き起こされた症状であれば、全て熱中症である可能性があります。



Q4：救急車が来るまでにできる応急処置は？

涼しいところへ移動する・水分/塩分を補給するなどがあります。

稀ですが重症熱中症によりお亡くなりになる方もいらっしゃいますので、呼吸をしていない場合は直ちに心肺蘇生を始めてください。ちなみに現場での応急処置のみで対処できるもの（医療機関での治療を必ずしも必要としないもの）を、軽症熱中症と呼んでいます。



救急センター
関根 良介 医師
が答えました

関根医師は救急医療が専門。ドクターカーに乗務するなど短時間での確な処置をしなければいけない場面で仕事をしています。

ドクター紹介



放射線治療センター長
玉木 義雄

放射線治療センター長の玉木と申します。平成25年4月に群馬県から赴任し1年が経過しました。茨城のおいしい野菜と海の幸に満足している毎日です。私の専門は放射線治療で、ほとんどすべての臓器のがんを対象としています。最近では、治療技術の進歩で高精度な放射線治療ができるようになってきました。放射線治療センターでは、スタッフ一同「安全、安心の放射線治療」を提供することをモットーとしています。ご自身の病気に放射線治療が向いているかどうか知りたい時には、気軽に放射線治療科を受診してください。



放射線画像診断科医長
兎山 健

放射線画像診断科の兎山と申します。一般の方々には放射線画像診断科とは聞きなれないことと思います。通常医師は患者様の問診、診察、血液検査、画像検査などを用いて総合的に判断、診断を行います。我々はそのうち画像検査を専門に行っている医師です。医療の発達により画像検査はX線写真(レントゲン)だけでなくCT、MRI、核医学検査、超音波、血管造影など多種多様になりしかも検査範囲は全身に及びます。医師がこれらすべての検査について十分な知識を持つというのはかなり大変であり我々のような専門家がいるのです。実際の仕事内容は主にCT、MRI、核医学検査に対するレポートを作成し、主治医の先生方の診療の手助けをします。時には我々の意見で治療方針が大きく変わり、また、主治医の先生方の専門分野以外の思わぬ病気を発見することもあります。それが我々の仕事の醍醐味でありやりがいにもなっています。患者様も主治医一人だけでなく我々のような様々な者がチームで診療に当たっていると安心して頂けたら幸いです。

各科各部紹介 第1回 医療相談支援室

「こんにちは、医療相談支援室の〇〇です。」と患者様やご家族に、ご挨拶すると、「誰?何をする人」という困惑の表情に出会う事があります。そこで「何か困った事がありましたら、相談して頂く部署です」と笑顔で、自己紹介をします。

「どんな仕事をしているの?」

●患者相談窓口機能(受診科案内、苦情・医療相談全般、福祉制度の説明(介護支援、在宅療養等) ●がん相談 ●DV相談 ●退院調整支援 ●医療機関(病院・施設・訪問看護ステーション等)や地域との連携推進などを行っています。患者様、ご家族へより良い支援ができるよう「めげずに、前向き、ひたむきに」をモットーに、日々頑張っています。

「どこにあるの?」

1階 玄関の正面 脇にガラス張りの部屋があります。どうぞ、お気軽にお訪ね下さい。



スタッフは室長(副総師長)1名、看護師3名、医療ソーシャルワーカー3名、事務1名です。

少しでも心を軽くするお手伝いを

「がん患者サロン」と「ピアサポート」のご案内

「がん患者サロン」は、患者やそのご家族など、同じ立場の人が、がんのことを自由に語りあえる場のことで、参加者が自主的に運営しています。語り合い、励まし合い、悩みや不安を分かち合うことによって気持ちを楽にすることができ、孤独感の解消や治療への理解が深まるというような役割が期待されています。

この度、当院内にもがん患者サロン（友部やまびこの会）が開設され、がん体験者、ご家族、支援者の方々にご利用いただいております。

また、当院では「がんピアサポート」も行っております。がんピアサポートは、がん経験者が、がん患者の声に耳を傾け、自らの体験をもとにアドバイスをし、闘病生活を支えていくことです。予約優先ですが、空き状況によっては予約なしでお受けできる場合もありますのでお問い合わせください。

「友部やまびこの会」

日時：毎月第1月曜日 13時～15時
場所：茨城県立中央病院内災害医療センター
問い合わせ：茨城県立中央病院
医療相談支援室
0296-77-1121（代表）

「がんピアサポート かさま」

日時：毎月第2・4金曜日
13時～15時30分
場所：茨城県立中央病院 1階外来診療室
問い合わせ：予約番号専用
0296-78-5420（予約者優先）

便利になりました！

整形外科と耳鼻咽喉科で 電話予約ができます。

患者さまの診療待ち時間を短縮するため、整形外科と耳鼻咽喉科外来の診療予約を電話及び各科窓口で受付しております。

- **予約の対象**
整形外科と耳鼻咽喉科の初診、再診とも電話と窓口で予約ができます。
- **予約受付時間**
・ 9時～17時
(土、日、祝日、年末年始を除く)
- **予約電話番号**
・ 0296-77-1121（内線2703）
地域医療連携室
- **その他**
 - ・ 予約の空き状況により、ご希望の日時がお取りできない場合があります。
 - ・ 検査予約は受付できません。
 - ・ 予約日時にご来院できない場合は、予約日前日までにキャンセルのご連絡をお願いいたします。

健康保険が適用になりました！

子宮筋腫に対する子宮動脈 塞栓術(UAE)を開始しました

子宮動脈塞栓術(UAE)とは、子宮筋腫によって生じる症状(過多月経、月経痛、貧血、腹部腫瘍の自覚など)を開腹せずにカテーテルという細い管を用いて治療する方法です。入院期間が短くて済み、日常生活にも早く戻れるのが特徴です。なお、治療には健康保険が使えます。

詳しい内容は放射線診断科ホームページからご確認ください。

<http://www.hospital.pref.ibaraki.jp/chuo/sguide/housya>

子宮動脈塞栓術(UAE)に関するお問い合わせは 医事課・塚本（内線5034）まで

ご意見箱から



食事メニューの改善を望みます。回復期になると入院生活の唯一の楽しみは食事です。食欲をそそるようなバラエティに富んだメニューを考慮して下さい。



貴重なご意見ありがとうございます。

病院の食事は、医師の指示に基づき疾病にあった食事を提供しております。献立については、日々内容を検討して重複しないように組み立てを変え、現在101種類を提供しておりますが、食器などの制約から、見た目が似たような料理になってしまうこともあるかと思えます。今後も食事は治療の一環としての位置づけのもと、地元特産食材料の利用や、季節感のあるメニューを取り入れるなど、患者さまがよりおいしく、楽しく食事ができますよう、さらに努力を重ねて参ります。(栄養科)



バス停に屋根が欲しい。屋根のある場所から行こうとするとバスに乗り遅れてしまいます。何とかならないでしょうか。



バスをご利用の皆さまにはご迷惑をおかけしました。7月中旬、バス停に屋根の設置が完了いたしました。(患者様相談室)



おほめの言葉

●今回の入院・手術・看護に対しましては最高の医療技術、丁寧な看護をしていただき、無事に退院することができました。帰宅後はご指導内容を良く守り体調の回復に努力し、少しでも早く今までの生活に戻りたいと思います。皆さんありがとうございました。

○投書いただきありがとうございました。患者さまが回復され、退院されることが私たち医療スタッフにとって、大変うれしいことでございます。ご自宅療養中もあまりご無理をせず、以前の生活に戻れますよう応援しております。(看護局長)

ご意見をお待ちしております

何かございましたら、各階にございます意見箱をご利用ください。メールによるご意見もお待ちしております。
goiken@chubyoin.pref.ibaraki.jp

看護師募集

現在、嘱託職員を募集しています。

勤務部署・勤務日等は相談に応じます。
お気軽に看護局までお問い合わせ下さい。

あなたの「働きたい」をサポートします!

*質の高い看護と魅力ある職場づくりに努力しています。
*教育、研修、安全管理体制をしっかりと整え、スタッフ全員で仕事と家庭の両立を支援します。



茨城県病院局 ☎029-301-6516
中央病院看護局 ☎0296-77-1121(代表)
担当: 紺野・角(すみ)

茨城県立中央病院・茨城県地域がんセンター

〒309-1793 茨城県笠間市鯉淵6528 ☎0296-77-1121 ホームページ <http://www.hospital.pref.ibaraki.jp/chuo/>